

対象	小学校中学年以上
教科等	特別活動
該当 単元	安全な登下校
教科書	
掲載日	2019. 8. 23. 朝刊東濃総合 11 版



通学路 ここが危ない

踏切や交差点：児童が安全確認

中津川市駒場の中津第五区に住む児童らが二十一日、登校の集合場所から西小学校まで一キロほどの通学路を歩き、災害があった場合の危険箇所や交通事故への注意が必要な地点などを確かめた。

(福本雅則)

二学期が始まるのを前に子どもたちに自らの身を守る意識を高めようと、地区の防災行事の一環として三年ぶりに実施した。一、六年の児童十五人と、地区の役員や保護者ら約二十人が参加し、NPO法人防災士なかつがわ会の原広志さん(セミ)が指導にあたった。

中津川・中津第5区

原さんが事前に、通学路にある踏切や車の多い交差点など二十六カ所をリストアップ。雨で増水しやすい水路、地震で倒れる恐れがある塀などの危険性を説明した。通学途中の大地震を想定し、落下物と揺れから頭を守る姿勢も取った。

地区の集会所では、通学路のハザードマップ作りに取り組んだ。地図上の通学路や川、線路を色分けし、危険箇所に写真と注意点を書き入れた付箋を貼って、一目で通学路の状況がわかるようにした。

六年の安保来夢さん(こ)は「マップを見て、電柱の多さが気になった」、二年の本田琉愛さん(こ)は「今まで危ないと思わずに通っていたけど、これからは気を付ける」と表情を引き締めていた。

原さんと通学路沿いにある水路を点検する小学生たち。中津川市駒場で

問1：安全確認はどのように行われたのでしょうか。

通学路を歩き、()があった場合の危険箇所や()への注意が必要な地点などを確かめた。

問2：ハザードマップはどのように作りましたか。

()上の通学路や川、()を色分けし、危険箇所に写真と()を書き入れた付箋を貼って、一目で()の状況がわかるようにした。

発展：あなたの通学路の危険箇所を確認しましょう。

【活用にあたって】

学校安全の3領域として、「生活安全」「交通安全」「災害安全」の三つが挙げられます。各学校では、学級活動の時間に指導が行われています。関係団体や外部講師等の協力を得て、防犯教室、交通安全教室、避難訓練などの学校行事と関連付けた指導も行われています。

近年、地震、台風、集中豪雨など様々な自然災害の発生に伴い、子どもたちを取り巻く安全に関する環境は変化しています。交通安全には道路の歩行や自転車の乗り方など様々な交通場面における危険と安全が含まれますが、災害安全との関わりにも配慮する必要があります。この記事のように、まず身近な通学路に潜む様々な危険を予測し、安全を保つために必要な事柄への理解を深める活動が大切になってきます。

解答例

問1：災害・交通事故

問2：地図・線路・注意点・通学路

発展：ふだんは危険箇所を意識して登下校することはないと思います。どんな危険があるのか、登下校時に友達と話してみることが大切です。